

1972年カミキリ界の総括

ふじた ひろし

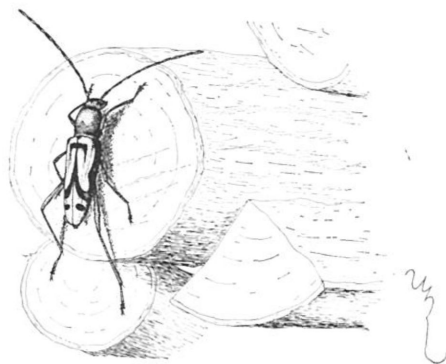
1972年もまた、その採集者人口では虫屋国会野党第1党? ともなったカミキリ界にとって激動の年であったわけで、とりわけ年ごとに目立ってくるヤングパワーにはすさまじいものがあった。これら若手の中には冬でもシーズン中であるかのごとくカミキリムシの顔みたさで(もちろんその多くは幼虫の顔なのであるが……)山野に出没する者も少なくなく、神奈川県川崎付近の輸入材からクロボシスギカミキリが多数採集されるといった一幕も彼らのクレージーパワーが生んだ所産であったと言えよう。

○春は年中行事から

本格的シーズンの到来は、新緑の中でカエデの花を叩いた瞬間に初めて感ずるものであるが……ここ東京都下の高尾山ではなぜかそのような姿はあまり見られず、多くの人が満開のカエデの木の下でネットを手にじっと座りこんでいる。春の年中行事の最たるもので、「高尾ヒラヤマ決戦」とか呼ばれている代物なのである。毎年20~30人ものカミキリ屋がひしめくこのケーブルカー脇のわずかな面積の土手は、4月中旬より5月初めの頃まで赤い小さな虫を巡っての数々の悲喜劇を生み出す舞台と化し、この土手一帯を飛んだ虫は皆白いネットの洗礼を受けることとなる。中には(ヤケツソか?) 毒ビンの中にヒラヤマ以外の赤い虫は全部入っていたような御仁もいたとか。こう大勢で押し寄せてみても、帰りの電車賃を喜んで払える光栄を享受できる人は1日1人いるかい



ヒラヤマ求めて群がるカミキリ屋



ないかといった調子で、結局、昨年採集されたヒラヤマコブハナは当地で1♂9♀♀の他、同じ東京都下の奥多摩川井で1♀(小田義広氏)、京都府芦生で1♂(中村俊彦氏)、兵庫県氷ノ山で1♀(同泉初記録、畑中熙氏)といったところ。——採集地集中化が問題となっている昨今ではあるが、一面、この「野外サロン」のごとき楽しいムードはなかなか捨てがたい味がある。

ヒラヤマ以外の春の行事をすこし pick up してみよう。まずモンクロベニは当たり年だったようだ。和歌山県御坊亀山では相当多数(1968年以来)、また、岡山県でも久々に美袋宇山・広瀬鶏足山などで割と得られたが、和歌山県ではほとんどがクスギなどの切株や薪に見られたのに対し、岡山県では切株に生えたひこばえの葉上に止まっていたものが大部分だった。

モンクロベニと並び、関西には「春日エゾトラ決戦」という行事も存在するらしい。こちらも今年は好調で6頭ほど得られたのだが、例によって「京都イモイモカルテット」および「大阪イモイモカルテット」のメンバー諸氏のネットにはかすりもしなかったという(杉野広一氏談)。

長野県上伊那郡の戸台付近では、コナンなどの花上でクロツヤヒゲナガゴバネ数頭(同時に今までウスグロヒゲナガゴバネとされていた別種も10数頭得られた)・カエデノヘリグロハナ・シラホシヒゲナガゴバネ・トウキョウトラなどの他、フタスジカタビロハナも多数採集されるなど(5月中旬)なかなか多彩な顔ぶれが見られた。

また、学生勢にとってはすでにシーズン開幕前、恒例の春の奄美があったわけで、こちらの方もコバルトヒゲナガゴバネ6頭という



今村佳英氏

豊作ぶりを筆頭に、キンケチャイロ1♂(初記録, 大和浜, 今村佳英氏)・ニイタカハナ2♂♂1♀(湯湾岳・八津野)・アラカワシロヘリトラ2頭の他, アマミアカハネハナ・アマミリンゴは多数採集されるなど, 盛況だったもよう。

○6月の学生勢・社会人勢

ヒラヤマ以後は少しの間おとなしかった関東の若手連も, 6月の声を聞くと, またも集中癖をもつ輩が福島県南会津へと向かう。数週間も新田原のお堂に泊まり込み連合赤軍とまちがえられたおかげで地元警察まで呼びこんだという清野隆氏(蛇足だがその後, 北海道でも変な小屋に泊まってまちがえられたのだ!)を始めとした若手連の猛攻にあっては, かつての秘境ムードもどこへやら。今まで当地より紹介された珍品はほとんど多数採集された以外に, 湯ノ花ではヨコヤマトラ1ex・トウキョウトラ4exs・マダラゴマフ1♂1♀(当地2・3頭目の記録)や, 未確認ではあるが, ムモンベニも2exs.得られたと聞く。

檜枝岐方面も種類数・個体数共に劣らず多く, ミズキの花や薪で, フタスジカタビロハナ1ex・エゾトラ1ex.(共に当地2頭目)・トウキョウトラ2exs・カエデノヘリグロハナ・ミヤマルリハナ・タカオメダカ・トホシなどが採集され, 部落内のスギ・マツ類の混じったケンタ材にはシラホンヒゲナガコバネの這い回る魅力的な姿も多く見られた。また, エゾトゲムネもオヒョウの枯枝に集まる習性が判り, 比較的多数が採集されるなど(湯ノ花温泉付近), 例年以上の成果があった。

一方, 社会人勢もようやく息を吹きかえし? 6月25日・7月2日の両日には静岡県安倍峠へ草間慶一・露木繁雄・木村欣二・松本忠之・高桑正敏氏らが訪れた。目的はヤマトヒメハナだったそうだが, 採集されたのはフジヒメハナ(5♂♂1♀)で, 富士山以外で本種が採集されたのは今回が初めて, 同時に得られたヘリグロソハナ(木村氏)の記録も面白く, 本州では富士山・天城山・紀伊半島に次ぐものであろう。

☆なお, 今年静岡県下で採集された下記の種も記録として興味深いもの。

フタスジカタビロハナ(富士山, 小宮次郎氏), クビアカハナ・タカオメダカ・ヤマトシロオビトラ(以上寸又峯, 松本忠之氏), ミヤマルリハナ・カエデヒゲナガコバネ・カラフトヒゲナガ(本種のみ'71年)・キボシチビ(以上静岡市洞慶院など, 出口可能氏)

○島嶼の大戦果より(1)

—伊豆諸島・対馬・下甌島—

地元にも多くのカミキリ屋を控えていながらも伊豆諸島



左: 高桑正敏氏 右: 酒井香氏

は交通の便が悪いためか? はたまた, 食指をそそる珍品のいなかったためか? 訪れる人も稀だったのだが, ここ数年, 有志達によりかなりカミキリ相も解明され出した。特に今年は神津島・御蔵島での成果が大きく, 従来ほとんど資料のなかった神津島へは7月1日~3日, 高桑正敏・酒井香氏が訪れ, ノコギリ・サビ*・ピロウド(ミクラピロウドとの中間型?)・トゲバ*・*Rhodopina* sp.・台湾メダカ*など計23種を採集(*印は伊豆諸島初記録)。また, 「秘境」と呼ばれている御蔵島では酒井香氏(7月6日~13日)・斉藤秀生氏(7月31日~8月4日)により, 伊豆諸島初記録のコバネ1♂(subsp. *insularis*と思われる個体)を始め, アラカワシロヘリトラ・ミクラチビ・オオキハネナシサビ・イズニセピロウド・クモノスモンサビ・*Rhodopina* sp. はいずれも多く, ベーツヒラタ(3♂♂1♀)・トカラヤハズ・ミクラピロウド・ドイなども採集され, 大戦果をあげたがハネナシチビだけは依然どの島からも得られていないようだった。

対馬も今年は収獲が多く, ベニバハナ1♂(対馬2頭目, 足立一夫氏)・ムネホシシロ1♂1♀・オオシロ5exs.(共に酒井香氏)以外にミスジヒメハナ・ベーツヤサ・スネケブカヒロコバネ・ヨスジアオなどは多数採集されたが, 何といても興味深いのは初記録の *Obrium* sp. とヤマトチビコバネで, 前者はサドチビアメイロに極似した日本未記録種で宮原道則氏による(13exs. 比田勝)。後者は一見すると前胸などが本州産の個体と異なったような感じを受ける。足立一夫氏により5exs.採集された。

九州のカミキリ屋諸氏にも下甌島は未開の地であったようだが, 5月上~中旬宮原道則・入江平吉氏の調査により興味深い種が得ら



宮原道則氏

れ、おおいに注目を浴びた。ヘリウスハナ・ミヤマクロハナ・タケウチヒゲナガコバネ・コジマヒゲナガコバネ・ズマルトラ・*Pseudale* sp. (新種)・シロスジドウボソといったものがそれだが、他に、たとえば触角の節だけ白いが、体型その他はニンフハナ?とか、一見マルオカホソハナ?風のホソハナとかおかしなものも得られ、今後の調査が期待される。

○島峡の大戦果より(2)一琉球列島

ここ最近、カミキリ屋の南の島々に対する憧れは大変なもので、ブームとも言うべき人気を呼んでいるが、かつての本命屋久・奄美は全盛期を越えたのか陰が薄くなり始め、代って今年の焦点となったのは沖縄本島・石垣島方面だった。

トゲウスバ2 exs. (安房, 杉野広一氏他)・コバネゴマフ1♀・*Rhodopina* sp. (マルバネコバネに似た新種, 以上白谷, 那須敏氏)・オニホソコバネ2♂♂・ケブカトラ1 ex. (以上栗生, 酒井案理氏)・ヤクシマヨツスジハナ1♂1♀ (宮之浦, 長尾悟氏)……が屋久の主だったところと言える。初記録のリュウキュウチビコバネは尾之間と栗生で計5頭得られたが、奄美産のものとは若干異なり、ヤマトチビコバネとの関連性を知る手がかりとなるかもしれない。九州本土における本属の発見が期待されよう。なお、ヤクシマホソコバネは零敗だったことも付記しよう。

奄美は例年と大差なく、タブの切株などの材中(かなり固い部分)からアマミニセクワガタが多数得られたこと(八津野), アマミトゲウスバが6~7頭八津野・湯湾でブタンガス燈に飛来したことの他はこれといったニュースはなかったが(アマミホソコバネは1頭のみ), 隣の徳之島では杉野広一氏がアマミモンキを始めとして *Nortia* sp., アマミトビイロ, リュウキュウチビコバネ・キュウシュウチビトラ・カノコサビ・アマミピロウド・アマミハリムネモモトなどの初記録を出すという快挙をなし、また、高桑正敏氏も1月同島より持ち帰ったタブの立枯れ材よりウスグロホソバネ12♂♂6♀♀等を羽化させている。

沖縄本島では原記載以来(1959年)記録の絶えていたリュウキュウモウセンハナが2♂♂採集され(入江平吉氏), イシガキチビトラのごとき珍品も数頭(初記録), アマミモンキ1 ex. (初記録)などの大物が、また、少なかったオモロピロウド・オキナワフト・ムモンツヤアラゲサビも多数採集された。

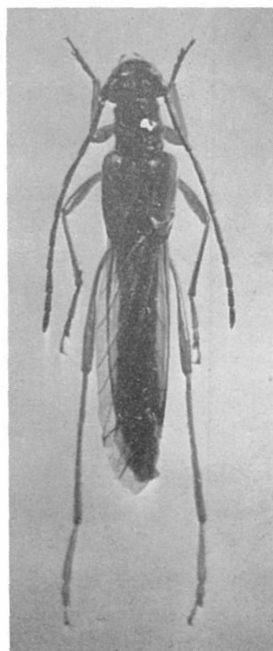
採集者のほとんど寄り付かない宮古島にも入江氏は訪れ(5月下旬), ミヤコリンゴ8 exs.・タイワンメダカ1 ex.・サキシマウスアヤ相当多数などを採集している。

石垣島は一番の焦点だった。沖縄本島以南のカミキリにはまだなじみの薄い人も多いことと思うが、実に大変な成果であった。かつての珍品も軒並みの下落ぶり、そのいきおいは2~3年前の屋久・奄美のそれ以上の迫力があつたとか。まずはコジマクロオビヒメ・ハッタアメイロ・リュウキュウヒメアメイロ・ヒロオビオオゴマフ・アナバネヒゲナガ・インガキフト(旧シロオビピロウド)・インガキクワなどがメタメタ多数、インガキトゲウスバ・フトヒゲウスバ・ムネスジウスバ・サキシマトゲヒゲトラ(やはり *ohbayashii* SAMUELSON が本種と混生しているようだ)・インガキトガリバサビも少なくなかったというからその程度もしれよう。原記載以来採集されていなかったというオキナワゴマフ *yayeyamai* も相当多数採集されたし、インガキゴマフによく似るが、触角の第5節基半に白色毛を持ち、前胸に2つの隆起のある *Mesosa* sp. も多かった(6~7年前より得られていたのだが、あまり知られていないので記しておく)。その他にもヤエヤマホソバネ・オガサワラチャイロ・フタツメイエ・コゲチャフタモンヒゲナガ・オキナワサビ・ヒゲナガヒメルリ・*Glenea* sp. (スジシロに似る?)……など枚挙にいとまのないほどだ。

○本州に日本未記録のネキがいた!!

これぞ「燈台下暗し」のきわめつけと言わねばなるまい。南アルプス二軒小屋(東俣)の標高1900m地点で、集木場のトウヒ衰弱木に飛来したネキはカラフトホソコバネ *Necydalis sachalinensis* MATSUMURA et TAMANUKI そのものだったのだ!(8月5日, 鈴木和利氏)

思えば、1969年のアマミホソコバネに始まって1970年のヤクシマホソコバネとウスリーホソコバネ、1971年のアイスホソコバネと、ここ4年間というものの毎年ネキの新種や日本未記録種が出ていくわけで、さらに本州産のネキ5種が珍品からファミリアなものとなっていく



南アルプス東俣産
カラフトホソコバネ♀

いきさつといい、ネキに関する進境ぶりは異常なほどでネキの魅力と人気が驚異を生んでいるとでもいうべきか。今年のカラフトホソコバネが特にカミキリ屋を驚嘆せしめたのは、いうまでもなく、昔からカミキリ屋のメッカであった二軒小屋で……という点で、誰にもまったく予想できなかったことだった。しかも、本種はこの1早の後、まるでカミキリ屋をあざけるがごとく、やはり大メッカである裏日光大沢の貯木場で1♂得られていたことが判明し(1971年7月下旬, 下村徹氏), さらに1972年も他に上高地で蝶屋が1♀採集していたとか?

♂は特にまぎらわしいものであるので、カミキリ屋諸兄には標本箱のネキ再点検を望みたい。これで日本産のネキはツヤホソコバネがホソコバネの黒化型となった今、計11種となった。

○北海道は「空ネキ」だった

昨年、アイヌホソコバネ etc.のネキが採集されたことは、今年、北海道に老若多数のカミキリ屋を呼びこむ原動力となったようだが、肝心のネキの方はさっぱりという体たらくで、「大山鳴動鼠1匹」ならぬ「ネキ0匹」とでもいうべきにビッタリの有様だった。

その代わりに? 特記すべきことには、大珍品であったエトロフハナが知床岩尾別付近のハマボウフウ・ノリウツギ・ウド科植物の花上、流木などで相当多数採集されたこと(草間慶一・奈良一・小宮次郎氏らによる)、ムネモンチャイロトラが少ないながら同地や足寄付近で採集されたことがあげられよう。

○その他の話題……

カラフトホソコバネ以外にも、本州では大きな成果があがっていた。たとえば長野県下では、珍品 No.1 のアカムネハナ 1 ex. (7月上旬, 扉温泉付近) を始め、クロサワヒメコバネ 1 ♀ (7月, 姫川谷中土) ・ミドリヒメスギ 2 ♀♀ (7月下旬, 南アルプス) といったいずれもまだ両手の指で記録を数えるほどしか採れていないウルトラ珍品が採れてしまったし、クロサワヘリグロハナ 1 ex. (7月上旬, 上伊那横川峡……昨年同地で 2 exs. 得られている) も本州では相当稀なものだ。なぜか、9月下旬にいきなり活動を再開した早川広文氏ら松本むしの会の面々は、科学的に分析したビーティング法? でタニグチコバヤハズ・フジコバヤハズ・コバヤハズ・セダコバヤハズ(愛知県境茶白山・売木)を比較的多数採集、マヤサンコバヤハズにいたっては数100頭というから恐しい。

岡山県新見市井倉では7月上旬、ヤマグワ枯枝のビーティングにて多数のキバネアラゲが採集されたが、これ

も特記に値しよう(平田信夫・青野孝昭・那須敏・分島徹人氏らによる)。また、同じ頃辻啓介氏は隣りの兵庫県氷ノ山から持ち帰ったサワフタギ? より、キバネアラゲに非常によく似ているのだが前胸が黒くないというおかしなもの? を 7 exs. 羽化させたのだった。

その他、愛知県で湯沢宣久・井野川重則氏により中部地方初記録のヤマトチビコバネ(定光寺)やキュウシュウチビトラ(豊田市猿投山)など。

愛媛県では松山市杉立でトゲウスバが少ないながら得られ、徳島県剣山ではヒゲジロホソコバネも1♂採れた(松村英一氏)。

水沼哲郎氏は台湾にてネキ3種(2種は新種)を始め、画期的な大戦果をあげられたそうで詳細の発表が待たれる。

* * * * *

末尾ながら、文中の似顔絵カットを書いて下さった木村欣二氏に感謝いたします。

(〒110 東京都台東区台東2-29-6)



辻 啓介氏

甲虫サロン (東京) へのお誘い

甲虫愛好者が毎週集まって甲虫談議に花を咲かせています。遠方の方々も、東京方面へおいでになる機会がありましたら、ぜひとも御都合をつけて出席されるようおすすめします。きっと楽しい雰囲気が入られることと思います。

場所: 喫茶店「加賀(かが)」
(Tel. 03-841-4878)
(国鉄上野駅浅草口より5分)

日時: 毎週木曜日夜7~11時

(ただし、祭日は休み)

